551.311.235.551.243(521.82)

風化花崗岩地帯におけるがけくずれ・山くずれ等の機構および予知に関する研究

（第２報）

Studies on the Mechanism and Foreknowledge of Landslides in Weathered Areas of Granitic Rocks

(Report Ⅱ)

ま　え　が　き

この研究は昭和３９年７月の山陰・北陸豪雨に際し，多大な被害の発生をみた地域のうち，島根県東部の風化花崗岩地帯におけるがけくずれ・山くずれを対象としたもので，特別研究促進調整費によって昭和３９年度および４０年度の２か年にわたる綜合研究として行われてきたものである．

本研究の対象地域は島根県東部地域のうち，大原郡加茂町のほぼ全域と大東町の西部で，主として花崗閃緑岩および花崗岩からなる地域である．対象とした災害は昭和３９年７月１８日から１９日の集中豪雨に際し発生したがけくずれ，および山くずれ等である．

すでに，第１報は防災科学技術総合研究報告第１４号（１９６８年）に発表されている。前報では対象地域の災害の全国的視野における位置づけ，地帯の地質構造・岩質・風化過程・風化程度と災害との関係，樹種・樹令・土壌その他林学的見地からみた崩壊危険性の検討，さらに地形発達史からみた風化帯形成と災害との関係などについて報告されている．

当第２報の内容は対象地域の災害が巨視的にみて，どのような地史的・地形発達史的経過にもとづいて発現しているかを地質的・地形的面から考察し，あわせて風化花崗岩地帯という点で類似した天竜川上流地域の昭和３６年６月および南山域地域の昭和２８年８月災害と比較議論したもの，および当地域の降雨状況を降雨群の集合とみなし，これら降雨群とがけくずれ発生時期・個数などとの関係を把えようとしたものからなっている．

われわれはこの第２報をもって風化花崗岩地帯の山くずれ・がけくずれの研究が完了したとは考えない．むしろ，これまでの研究は問題点を見いだす作業であったと考えている．したがって，これらに関連した問題は現在も研究を進めており，また将来も継続すべきである．しかし，この表題の総合研究報告としては本報をもって終報としたい．風化花崗岩地帯の問題に関する今後の報告は，当所発行の他の出版物，学会誌等に発表されることになるであろう．なお，当初で行なった風化花崗岩の研究で第１報発行後別途発表されたものは，当所研究報告第２号（１９６９年），応用地質１０巻第２号（１９６９年），第７回および第８回災害科学シンポジウム論文集（１９７０，１９７１年）などに掲載されている．

終わりに，この研究を推進するにあたって御協力いただいた関係各省庁，同研究機関，担当研究者および島根県総合振興室，土木部砂防課，農林部林業課，木次土木事務所，木次農業土木事務所，ならびに加茂町，大東町，木次町の関係各位に深く感謝する．